学科名	観光本科	課程名	文化・教養
		修業年限	2年課程

学科概要
沖縄の観光産業で必要な「沖縄観光」を学ぶ。沖縄の歴史、観光地、方言等を学ぶことや英語で沖縄の素晴らしさをプレゼンテーションする力や実践的な英会話力をつけ、現場で活躍できるスキルを身につける。 また、エアライン業界に必要とされる積極性、気配りする姿勢を身につけ、後輩・先輩間の関係からコミュニケーション能力を高めることができ、2年生には後輩指導を任せることで責任感を持たせ、1年生は先輩を立てることで気配りを学び、2年生の就活に取り組む姿を近くで見て学ぶ事を目的としている。

講義科目	必須 選択	講義 形態	時間数	備考
航空総論	必須	講義	37時間	実務経験のある教員等による授業科目
中国語	必須	実習	74時間	
一般常識	必須	実習	148時間	実務経験のある教員等による授業科目
教養講座	必須	講義	4時間	
英会話	必須	実習	222時間	
英語検定	必須	講義	296時間	
旅行実務	必須	講義	222時間	
旅行業法・約款(基礎)	必須	講義	222時間	
運賃・料金	必須	講義	296時間	
ワープロ	必須	実習	148時間	実務経験のある教員等による授業科目
ケーススタディ(ゼミナール)	必須	実習	148時間	実務経験のある教員等による授業科目
現代礼法	必須	実習	37時間	実務経験のある教員等による授業科目
			1854時間	

成績評価の基準・方法	卒業・進級の認定基準
出席時間数が講義時間の３分の２に達した者について、各試験、論文、レポート、実験、実技、創作卒業研究の成果、並びに各科目の履修状況等を総合的に勘案して行う。 成績基準（評価文字と点数） S:100～90、A:89～80、B:79～70、C:69～60、D:59～0、F:評価不能	出席時間および履修単位数などの所定の課程を修了した者を教育課程の修了又は卒業と認める。 卒業認定基準 出席時間数：1700時間以上

学修支援等	備考
学生支援、就職活動支援、学習環境整備を積極的に行い総合的な支援を行う。	

科　目　名			
航空総論			
学科	授業形態	必須・選択	時間数
観光本科	講義	必修	37時間

講　義　の　概　要

実務経験のある講師（キャビンとアテンダント、グランドスタッフ経験者）から、旅客業務に必要な接客用語や身だしなみ、旅客へのマナーなど、幅広い知識を学習し、また、航空機のしくみ、仕事の流れから必要な人材まで、航空業界の基礎を学ぶ

講義終了時の到達目標

航空業界の基礎を理解し、業界への就職のモチベーションを上げる

講義計画

・CAの業務について(第一印象)
・身だしなみチェック、立ち方、座り方、お辞儀
・航空用語、滑走路について
・グループワーク（チームワーク）
・グループワーク（伝える力、聴く力）
・飛行機のしくみ、世界の飛行機会社、　視覚障がい者の介助
・航空用語・3レターコード・アライアンス
・企業研究

備　考	評価基準
実務経験の講師が担当	・提出課題　40% ・期末試験　40% ・受講態度　20%

科　目　名			
中国語			
学科	授業形態	必須・選択	時間数
観光本科	実習	必修	74時間

講　義　の　概　要

本講座【中国語】はいわゆる「第二外国語」としての中国語授業となる。初めての中国語学習と位置づけ、初心者向けに発音、読みから始め、中国語文法についての知識、簡単な会話を学び、単語練習・会話練習・リスニングを通して基礎的な中国語を学習する。

講義終了時の到達目標

中国語の基礎的な日常会話能力を身につける。

講義計画

・発音記号
・基本的な挨拶と表現
・自己紹介
・基本的な文型
・副詞の用法
・否定の用法
・比較文
・形容詞の用法
・進行形

備　考	評価基準
	・提出課題　40% ・期末試験　40% ・受講態度　20%

科　目　名			
一般常識			
学科	授業形態	必須・選択	時間数
観光本科	講義	必修	148時間

講　義　の　概　要

秘書技能を通し、社会人としての自覚と心構えを学ぶ。秘書に必要な資質、企業の基礎知識、マナー・接遇、電話応対について学ぶ。「会社常識」と「社会性」を身につけるため、教科書を通して演習を行い、実践を交えて基礎的なマナーを体得してもらう。

講義終了時の到達目標

秘書技能を学習することで「社会(職場)常識」と「社会性」を身につけさせ、社会人としての土台を作る。「挨拶」「自己管理」を徹底させる。秘書検定2級を目標に学習し、後期では準１級を目標にし、就職活動に必要なビジネスマナーを身につける。

講義計画

・敬語の使い方
・必要とされる資質（秘書の心構え）
・秘書に求められる能力
（適した人柄と性格・望ましい身だしなみ）
・電話の応対、接遇の心構え、受付、案内のマナー
・郵便物、慶事
・文書管理、郵便物の取り扱い、種類

備　考	評価基準
	・提出課題　40% ・期末試験　40% ・受講態度　20%

科　目　名			
教養講座			
学科	授業形態	必須・選択	時間数
観光本科	講義	必修	2時間

講　義　の　概　要

通訳案内士・通訳者として活動する外部講師の特別講義を通して、沖縄県の産業・経済また英語にまつわる就職事情について知る。

講義終了時の到達目標

通訳者・通訳案内士を含めた、英語を用いる職業の理解と業種の現状の理解、また語学を学ぶ目的意識、就職へのモチベーションアップを目的とする

講義計画

・沖縄県の観光産業の基礎について
・沖縄県の通訳業について
・英語学習を通して何を得るか
・英語を用いた就職について

備　考	評価基準
	・提出課題　40% ・期末試験　40% ・受講態度　20%

科　目　名			
英会話			
学科	授業形態	必須・選択	時間数
観光本科	実習	必修	222時間

講　義　の　概　要

「聞く（リスニング）」「話す（スピーキング）」「読む（リーディング）」「書く（ライティング）」という4つの力――いわゆる「英語4技能」を重要な要素と位置づけ、本講義では英語を母国語とする講師との会話を通して、英語コミュニケーションの力を磨き、グローバル化する時代に対応できる人材育成を行う

講義終了時の到達目標

外国人スタッフ、クライアントが外国人な職場にて必要なコミュニケーションが取れる会話スキル、日常英会話、ビジネス英会話の習得

講義計画

・会話頻出表現　(personal information)
・スキット学習　(shopping、 Restaurants)
・ディベート　時事テーマを決めて実施
・スピーチ　レベルにより複数のテーマからスピーチ
・フリートーキング
・プレゼンテーション

備　考	評価基準
	・提出課題　40% ・期末試験　40% ・受講態度　20%

科　目　名			
英語検定			
学科	授業形態	必須・選択	時間数
観光本科	講義	必修	296時間

講　義　の　概　要

この講義では講義開始時にレベル分けテストを行い、初級の3級から、準2級、2級、準1級、一1級5つのクラスに分け、それぞれの級取得を目指す。英検合格に必要な問題の解き方や英語力の向上を図りながら、色々な英語に触れる。1次試験では単語力はもちろんのこと読解力も必要になってくるので長文読解などは一つ一つ丁寧に確認しながら授業をしていく。

講義終了時の到達目標

検定級の合格だけではなく、自分自身の英語勉強法を確立すること。

講義計画

・語彙問題①　Vocabulary Part 1
・語彙問題②　Vocabulary Part 2
・長文読解① Reading Part & Listening Part 1
・長文読解② Reading Part & Listening Part 2
・Listening対策① Reading Part & Listening Part 3
・Listening対策② Reading Part & Listening Part 4
・過去問演習・模擬試験解答解説 1
・過去問演習・模擬試験解答解説 2
・2次試験対策（模擬面接）

備　考	評価基準
	・提出課題　40% ・期末試験　40% ・受講態度　20%

科　目　名			
旅行実務			
学科	授業形態	必須・選択	時間数
観光本科	講義	必修	222時間

講　義　の　概　要

本講義では実務経験のある講師（ホテル勤務等）による、ホテル業界の歴史、種類についての基本知識と、各部門ごと（宿泊分野、料飲分野など）の実務内容を学び、ホテル業界で働くために必要なホスピタリティマインドを身につける。

講義終了時の到達目標

「ホテル実務技能検定 初級」の合格を目的とし、ホテル業界における基本的な知識を習得する

講義計画

・ホテルマンの心得
・ホテルの種類と組織
・沖縄県内のホテルリサーチ＆まとめ、発表（グループワーク）
・ホスピタリティマインド
・旅館業法と国際観光ホテル整備法
・食品衛生、建築基準法、消防法
・国際的な社交マナー、外国人とのコミュニケーション、危機管理
・フロントオフィスとは、客室の種類
・フロント・キャッシャー業務、インフォメーション業務
・リザベーション業務
・クローク、コンシェルジュの仕事
・ハウスキーピングの仕事

備　考	評価基準
実務経験の講師が担当	・提出課題　40% ・期末試験　40% ・受講態度　20%

科　目　名			
旅行業法・約款			
学科	授業形態	必須・選択	時間数
観光本科	講義	必修	222時間

講　義　の　概　要

旅行会社、航空会社、鉄道・船舶・バス会社、ホテルなどの観光関連産業への就職を志す人に必要な基礎知識を学習する
まず、観光関連産業の概説から始め、次に観光地理・海外観光地理と進めていきます。この業界では、最新情報が重要なカギとなるので、随時触れていく

講義終了時の到達目標

就職試験合格
旅行・観光関連産業全体の概要把握

講義計画

・旅行実務（運賃・料金・各種業務・緊急時の対処・他）
・観光地理（国内・海外）
・交通機関（航空・JR・他）
・宿泊機関（ホテル・他）
・渡航手続きと出入国手続き（旅券・査証・出入国審査・検疫・税関）
・法律等の基礎知識（旅行業法・旅行業約款・運送約款・宿泊約款・他）

備　考	評価基準
	・提出課題　40% ・期末試験　40% ・受講態度　20%

科　目　名			
運賃・料金			
学科	授業形態	必須・選択	時間数
観光本科	講義	必修	296時間

講　義　の　概　要

観光業におけるサービス価値の創造、観光客の動向分析、観光業を取り巻く環境分析、観光客の分散などを講義し、企画立案の演習をする。

講義終了時の到達目標

観光客のサービス満足度を最大にし、持続的かつ魅力的な観光商品を開発・提供する方法を学ぶ。

講義計画

・マーケティング
・サービス価値
・観光の購買行動
・観光の環境分析
・観光市場の競争
・海外旅行商品の流通
・新市場の創造と競争優位
・観光地としてのまちづくり
・インバウンド
・宿泊施設

備　考	評価基準
実務経験の講師が担当	・提出課題　40% ・期末試験　40% ・受講態度　20%

科目名			
ワープロ			
学科	授業形態	必須・選択	時間数
観光本科	実習	必修	148時間

講義の概要

MS Officeを用い、Wordを使っての文章作成、タイピング能力の育成、また、Excel表計算処理技能認定試験３級問題集の問題練習を通し、それぞれ認定資格３級に必要となる知識や操作方法を講義する。

講義終了時の到達目標

Microsoft Excel表計算処理技能認定試験3級取得に必要な操作方法、並びにWorldの基本的な操作技術の習得を目標とする。

講義計画

・MS office概論
・Word, Excelの基礎知識、PC操作
・タイピング実習、ドキュメント作成
・タイピング実習、表計算ファイル作成
・作表並びに関数入力（SUM、％算出、絶対参照）
・図形作成と設定およびカウント関数
・グラフ作成（編集、タイプ選択）、円グラフ作成
・作表並びに抽出、ソート、MAX, MIN関数、集合縦棒グラフ作成
・作表、図形挿入、AVERAGE関数、印刷の設定、3-D 集合横棒グラフ作成
・作表、合計、平均、ROUNDDOWN関数、並べ替え、フィルター設定、折れ線グラフ作成
・作表、図形挿入、合計、平均、並べ替え、条件抽出、積み上げ縦棒グラフ作成、印刷設定
・作表、図形挿入、合計、最大・最小値、並べ替え、RANK設定、グラフ作成、印刷設定

備考	評価基準
実務経験の講師が担当	・提出課題　40% ・期末試験　40% ・受講態度　20%

科　目　名			
ケーススタディ			
学科	授業形態	必須・選択	時間数
観光本科	実習	必修	148時間

講　義　の　概　要

観光業界・航空業界が国や地域社会にもたらす各種の影響を踏まえたうえで、地域でインバウンドに取り組む際に重要となる考え方について理解し、その実践過程における課題を認識し、解決のためのアプローチを考えることができる実務教育を行う。

講義終了時の到達目標

業界に必要なホスピタリティ精神を身につけ、観光産業における体系的なマネジメント分析の方法を理解し、更には課題について解決のためのアプローチを考えることが出来る。

講義計画

・自己紹介/お辞儀/座り方の練習
・なりたいCA像/ドリームマップ作成
・発声練習/アナウンス
・アライアンスの種類/航空会社に求められるもの
・アピアランス(美しい髪形の作り方)
・エアラインニュース/1分間スピーチ
・エアラインニュース/機内ケーススタディ/機内エピソード朗読
・おもてなしコンテスト(機内サービス)
・ドリンクサービス

備　考	評価基準
実務経験の講師が担当	・提出課題　40% ・期末試験　40% ・受講態度　20%

科　目　名			
現代礼法			
学科	授業形態	必須・選択	時間数
観光本科	講義	必修	37時間

講　義　の　概　要

サービス接遇実務を通して基本的なサービスを行うための知識、技能を身につける。社会常識、ビジネスの場におけるマナーを学ぶ。

講義終了時の到達目標

サービス接遇実務について理解を持ち、一般的なサービスを行うのに必要な知識、技能を持つ。

講義計画

・サービススタッフの資質
・専門知識・一般知識
・対人技能
・実務技能
・敬語の使い方（ロールプレイング）

備　考	評価基準
実務経験の講師が担当	・提出課題　40% ・期末試験　40% ・受講態度　20%